

近畿大学医学部（前期）2014年度入学試験 解答速報 数学

平成26年 1月26日 実施

1 円 C_1 に内接する四角形 ABCD があり、2つの辺の長さが $AB = 1$, $BC = 2$ となっている。 $\angle ABC = \theta$ とおく。次の間に答えよ。

(1) $AC^2 = m + n \cos \theta$ と表すと $m = \boxed{\text{ア}}$, $n = \boxed{\text{イ}}$ である。ただし、 m, n は整数とする。

(2) 四角形 ABCD の残りの辺の長さが $CD = 2$, $DA = 4$ となっている。

このとき、 $\cos \theta = \boxed{\text{ウ}}$, $AC = \boxed{\text{エ}}$ である。

また、円 C_1 の半径は $\boxed{\text{オ}}$, 四角形 ABCD の面積は $\boxed{\text{カ}}$ である。

解答

ア. 5 イ. -4 ウ. $-\frac{3}{4}$ エ. $2\sqrt{2}$ オ. $\frac{4}{7}\sqrt{14}$ カ. $\frac{5}{4}\sqrt{7}$

解説

(1) 三角形 ABC に余弦定理を適用して、

$$AC^2 = AB^2 + BC^2 - 2AB \cdot BC \cos \theta = 5 - 4 \cos \theta$$

(2) 三角形 ACD に余弦定理を適用して、

$$AC^2 = AD^2 + CD^2 - 2AD \cdot CD \cos(\pi - \theta) = 20 + 16 \cos \theta.$$

これと (1) より $\cos \theta = -\frac{3}{4}$, $AC = 2\sqrt{2}$.

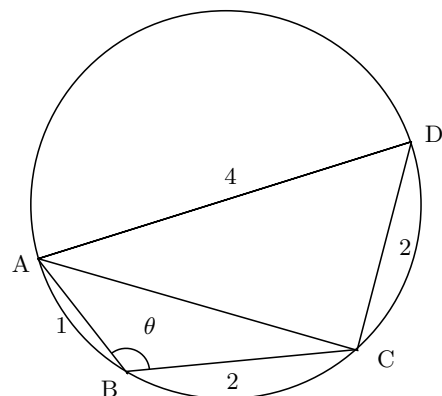
$\sin \theta = \frac{\sqrt{7}}{4}$ と正弦定理より $\frac{AC}{\sin \theta} = 2R$ が成り立つので

$$R = \frac{2\sqrt{2}}{2 \sin \theta} = \frac{4}{7}\sqrt{14}.$$

四角形 ABCD の面積は

$$\triangle ABC + \triangle ACD = \frac{1}{2} \cdot AB \cdot BC \sin \theta + \frac{1}{2} \cdot AD \cdot CD \sin(\pi - \theta)$$

$$= \frac{\sqrt{7}}{4} + \sqrt{7} = \frac{5}{4}\sqrt{7}$$



2 s を $0 < s < 1$ の範囲にある実数とする. $\triangle ABC$ において, 辺 AC を $2:3$ に内分する点を D , 辺 BC を $s:1-s$ に内分する点を E とする. また線分 BD と線分 AE の交点を F とする. 次の間に答えよ.

- (1) $\vec{AF} = k\vec{AE}$ とおく. k を s を用いて表せ.
- (2) $\triangle AFD$ の面積が $\triangle EFB$ の面積の 2 倍になるように s を定めよ.
- (3) $AB = 3, AC = 2, \angle BAC = 60^\circ$ とする. $\vec{AE} \perp \vec{BC}$ となるように s を定めよ.

解答

(1) メネラウスの定理より

$$\frac{AF}{FE} \cdot \frac{EB}{BC} \cdot \frac{CD}{DA} = 1 \iff \frac{AF}{FE} \cdot \frac{s}{1} \cdot \frac{3}{2} = 1$$

したがって $AF:FE = 2:3s$ となるので, $\vec{AF} = \frac{2}{3s+2}\vec{AE}$ がわかる. したがって $k = \frac{2}{3s+2}$

(2) メネラウスの定理より

$$\frac{BF}{FD} \cdot \frac{DA}{AC} \cdot \frac{CE}{EB} = 1 \iff \frac{BF}{FD} \cdot \frac{2}{5} \cdot \frac{1-s}{s} = 1$$

したがって $BF:FD = 5s:2(1-s)$ である. 題意より

$$\begin{aligned} (\triangle AFD \text{ の面積}) &= 2 (\triangle EFB \text{ の面積}) \iff FA \cdot FD = 2FB \cdot FE \iff 2 \cdot 2(1-s) = 2 \cdot 5s \cdot 3s \\ &\iff 15s^2 + 2s - 2 = 0 \iff s = \frac{-1 \pm \sqrt{31}}{15} \end{aligned}$$

$0 < s < 1$ より $s = \frac{-1 + \sqrt{31}}{15}$

(3) $\vec{AB} \cdot \vec{AC} = |\vec{AB}||\vec{AC}| \cos 60^\circ = 3$ である. $\vec{AE} \cdot \vec{BC} = 0$ より

$$\begin{aligned} \{(1-s)\vec{AB} + s\vec{AC}\} \cdot (\vec{AC} - \vec{AB}) &= 0 \iff (1-s)\vec{AB} \cdot \vec{AC} - (1-s)|\vec{AB}|^2 + s|\vec{AC}|^2 - s\vec{AC} \cdot \vec{AB} = 0 \\ &\iff 3(1-s) - 9(1-s) + 4s - 3s = 0 \\ &\iff s = \frac{6}{7} \end{aligned}$$

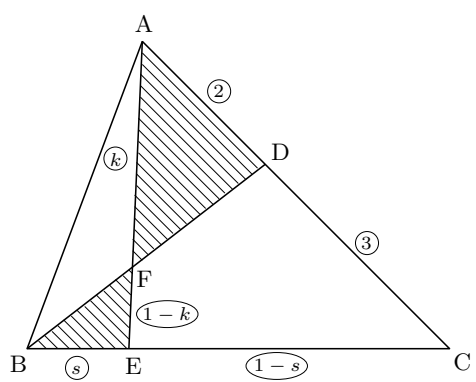


図 1

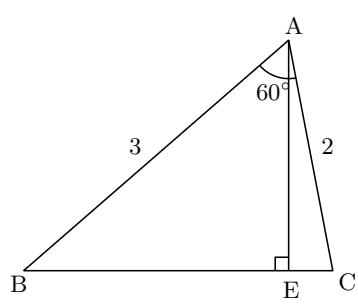


図 2

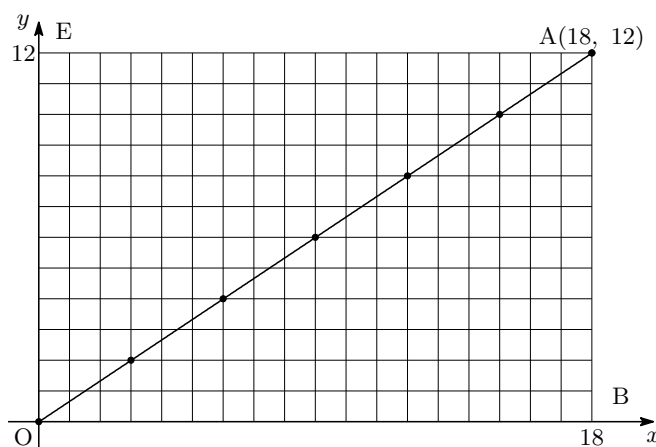
3 xy 平面上の点 P の x 座標, y 座標をそれぞれ P_x, P_y と書く. P_x, P_y がともに整数であるような点 P を格子点という. 次の問に答えよ.

- (1) 原点 O と点 $A(18, 12)$ を結ぶ線分 OA がある. 線分 OA 上にある格子点の個数を求めよ. ただし両端 O, A も線分 OA 上の点とする.
- (2) O, A と点 $B(18, 0)$ を頂点とする $\triangle OAB$ の周または内部にある格子点の個数を求めよ.
- (3) n を正の整数とする. 2点 $C(n, 0), D(0, n)$ を考える. 格子点 P が $\triangle OCD$ の周または内部を動くとき P_x の総和を m_1 とおく. また, $|P_x - P_y|$ の総和を n が偶数のとき m_2, n が奇数のとき m_3 とする. m_1, m_2, m_3 を n の式で表せ. ただし解答は $an^3 + bn^2 + cn + d$ のように n の次数について整理し, 降べきの順 (次数の高い順) に書くこと.

解答

- (1) 線分 OA の方程式は $y = \frac{2}{3}x$ ($0 \leq x \leq 18$) なので, 線分 OA 上の格子点は, $(0, 0), (3, 2), (6, 4), (9, 6), \dots, (18, 12)$ の **7** 個.

- (2) $E(0, 12)$ とおく. 長方形 $OBAE$ の周および内部の格子点の総数は, $19 \times 13 = 247$ 個である. これと (1) の解を利用すると, 求める格子点の個数は, $\frac{247 - 7}{2} + 7 = \mathbf{127}$ 個 (右図参照).

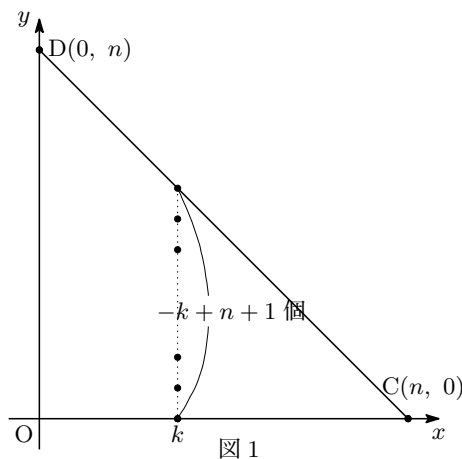


- (3) 線分 CD の方程式は $y = -x + n$ ($0 \leq x \leq n$) である.

まず最初に, m_1 から求めよう.

$x = k$ ($k = 0, 1, 2, \dots, n$) 上の格子点の個数は $-k + n + 1$ 個なので (図 1 参照), 求める総和 m_1 は,

$$\begin{aligned} m_1 &= \sum_{k=0}^n k(-k + n + 1) = \sum_{k=0}^n \{-k^2 + (n + 1)k\} \\ &= \frac{1}{6}n^3 + \frac{1}{2}n^2 + \frac{1}{3}n \end{aligned}$$



m_2, m_3 を求める.

直線 $y = x$ 上の点については $P_x = P_y$ が成り立つことと対称性によって, 直線 $y = x$ の下側の領域 ($P_x > P_y$) について調べて 2 倍すればよい.

(i) n が偶数のとき

$x + y = n$ と $y = k$ の交点は $(n - k, k)$ ($0 \leq k \leq \frac{n}{2}$) なので、
 $y = k$ 上の格子点は

$$(k + 1, k), (k + 2, k), \dots, (n - k, k)$$

であり、 $|P_x - P_y|$ の値は

$$1, 2, \dots, n - 2k$$

その和は

$$\frac{1}{2}(n - 2k + 1)(n - 2k)$$

したがって、

$$m_2 = 2 \sum_{k=0}^{\frac{n}{2}} \frac{1}{2}(n - 2k + 1)(n - 2k) = \frac{1}{6}n^3 + \frac{3}{4}n^2 + \frac{5}{6}n$$

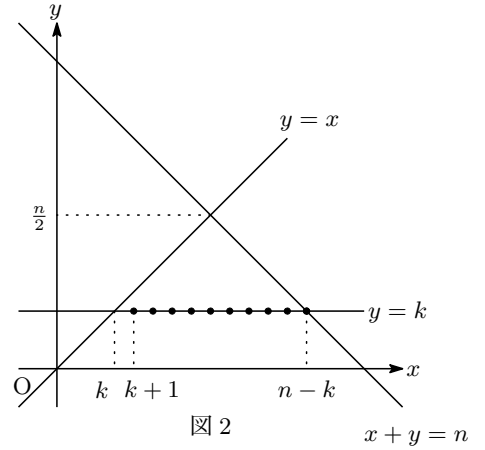


図 2

(ii) n が奇数のとき

同様に、

$$m_3 = 2 \sum_{k=0}^{\frac{n-1}{2}} \frac{1}{2}(n - 2k + 1)(n - 2k) = \frac{1}{6}n^3 + \frac{3}{4}n^2 + \frac{5}{6}n + \frac{1}{4}$$

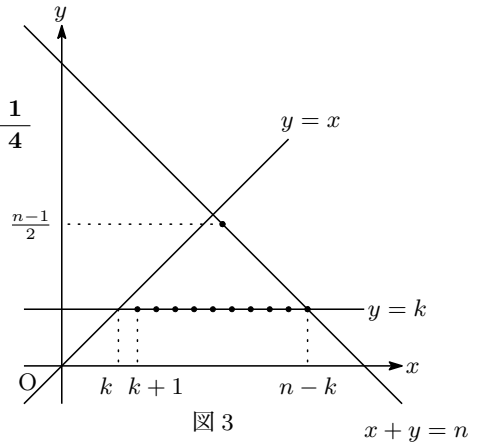


図 3

m_2, m_3 を求める別解

$x - y > 0$ の部分の総和を求めて、それを 2 倍する方針でいく。

$x - y = k \Leftrightarrow y = x - k$ ($1 \leq k \leq n$) 上の格子点の個数は、

この直線と CD の交点が $(\frac{n+k}{2}, \frac{n-k}{2})$ であることより、

$[\frac{n-k}{2}] + 1$ 個である (図 4 参照)。ここで $[x]$ は x を超えない最大の整数を表す。いわゆるガウス記号。以下、この個数を a_k とおく。

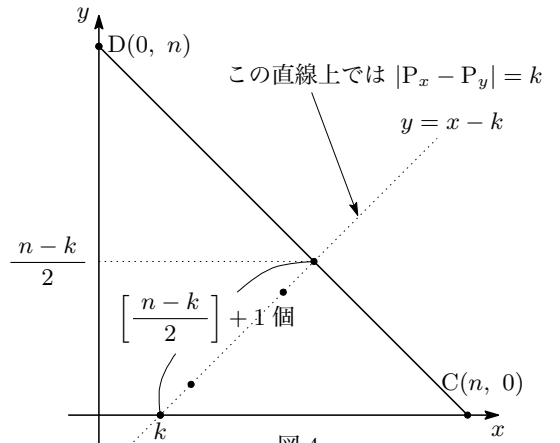


図 4

まず、 n が偶数であるとき、 $n = 2N$ (N は正の整数) とおくと、

① $k = 2l - 1$ ($l = 1, 2, \dots, N$) のとき、

$$a_k = \left[\frac{2N - 2l + 1}{2} \right] + 1 = \left[N - l + \frac{1}{2} \right] + 1 = N - l + 1$$

② $k = 2l$ ($l = 1, 2, \dots, N$) のとき、

$$a_k = \left[\frac{2N - 2l}{2} \right] + 1 = [N - l] + 1 = N - l + 1$$

したがって①②より、求める総和 m_2 は、

$$\begin{aligned}
 m_2 &= 2 \sum_{k=1}^n ka_k = 2 \left\{ \sum_{l=1}^N (2l-1)(N-l+1) + \sum_{l=1}^N (2l)(N-l+1) \right\} \\
 &= \dots \\
 &= \frac{1}{3}N(N+1)(4N+5) = \frac{1}{3} \cdot \frac{n}{2} \left(\frac{n}{2} + 1 \right) (2n+5) \quad \left(\because N = \frac{n}{2} \right) \\
 &= \frac{1}{6}n^3 + \frac{3}{4}n^2 + \frac{5}{6}n
 \end{aligned}$$

次、 n が奇数であるとき、 $n = 2N - 1$ とおくと、

① $k = 2l - 1$ ($l = 1, 2, \dots, N$) のとき、

$$a_k = \left[\frac{(2N-1) - (2l-1)}{2} \right] + 1 = [N-l] + 1 = N-l+1$$

② $k = 2l$ ($l = 1, 2, \dots, N-1$) のとき、

$$a_k = \left[\frac{(2N-1) - 2l}{2} \right] + 1 = \left[N-l - \frac{1}{2} \right] + 1 = (N-l-1) + 1 = N-l$$

したがって①②より、求める総和 m_3 は、

$$\begin{aligned}
 m_3 &= 2 \sum_{k=1}^n ka_k = 2 \left\{ \sum_{l=1}^N (2l-1)(N-l+1) + \sum_{l=1}^{N-1} (2l)(N-l) \right\} \\
 &= \dots \\
 &= \frac{1}{3}N(N+1)(4N-1) = \frac{1}{3} \cdot \frac{n+1}{2} \left(\frac{n+1}{2} + 1 \right) (2n+2-1) \quad \left(\because N = \frac{n+1}{2} \right) \\
 &= \frac{1}{12}(n+1)(n+3)(2n+1) \\
 &= \frac{1}{6}n^3 + \frac{3}{4}n^2 + \frac{5}{6}n + \frac{1}{4}
 \end{aligned}$$

1 図形問題 (円に内接する四角形)

レベルは易
典型問題であり、ぜひとも完答したい。

2 平面ベクトル (三角形)

レベルは易
計算も簡単である。メネラウスの定理を用いてすっきりやりたい。これもぜひとも完答しておきたい。

3 格子点

レベルは難
(3) は方針も立ちにくいし、それをクリアしても計算が重く、完答は難しいだろう。

題材的にはどれも典型題ではあるが、難易の差が激しく1, 2番は完答したが3番は途中までしかできなかった、という生徒が多かったろう。差が付きにくいセットだったと言える。1番2番を完答して3番でどこまで戦えるかが勝負の分かれ目。合格には最低でも8割程度は必要であろう。